

大槻重之著

インドネシア専科

第4巻 C 歴史編

表紙絵 清原嘉彦

ディエン高原にて

2000m を超えるディエン高原に、工場の連中と見学に出かけた。背後の火山群の山麓の高原で、珍しいいろいろのサンジャヤ王朝（8世紀以降）の遺跡や湖群に満足、涼しいのが又格別。仲間に聞くと、この王朝は我々ジャワ人のオリジナルとか威張っていたが、私には分らなかった。風景だけは、仕事を忘れ王者気分で、最高だった。

ファタヒラ公園にて

バタビア時代の中心地であった、港（スンダ・クラパ）の近くのクタ地区は、かつて行政・商業の要の地であった。ファタヒラ公園は新しい時代の公園だが、案内してくれた運転手君は「地下は牢屋だったんですよ」ブタウィ人の彼は、さりげなく「我々のご先祖さん達は、この地域へは立ち入り禁止だったんですよ！」と、云った。いろいろあったんだなァ〜。

はじめに

歴史とは古代から年代を追った時代毎の記載に慣れている。しかしながらインドネシア歴史をまとめようとして当惑した。独立前のインドネシア史とは島毎の歴史である。ジャワ島が本流であるにしても、外島も重要なかわりを有している。オランダ、日本という異質な外部者の統治もあった。日本との関係を付加したい。魅力ある人物を紹介したい。これら切り口の異なる視点について統合性と継続性を念頭におきつつ試行錯誤の結果が本冊子「歴史編」の構成である。無意識ながら結果的には司馬遷の「史記」本紀、世家、列伝という編集スタイルを真似ることになった。

インドネシア史を学ぶことは日本歴史を学ぶことであることを改めて確認した。日本という国はどういう経緯で存在したか、日本はなぜ植民地化を免れたかなどインドネシア歴史を学ぶことにより日本歴史への関心が深まったことである。

2007年9月

著者しるす

固有名詞の表記

歴史編に限らず「インドネシア専科」全編に関連することであるが、扱いに困るのは固有名詞の日本語（カタカナ）表記である。例えばジャワ王朝には「サイレンドラ王国」と「シャイレンドラ王国」がある。人名では「ガジャ・マダ」と「ガジャマダ」がある。どちらが正しいかという問題より、インターネット時代では表記いかんで検索結果の情報量が異なることである。

本インドネシア専科においては便宜上「インドネシアの事典」（石井米雄監修 1991 同朋社刊）の表記に統一し、別表記についてはHPに掲載している。

ローマ字検索の便宜の為、固有名詞についてはローマ字によるインドネシア語表記も可能な限り併記した。ローマ字検索の世界は英語、インドネシア語のみならずオランダ語のHPにいきあたる。特に画像（イメージ）検索の場合は言語は関係ない。インターネット社会では固有名詞のローマ字表記は不可欠であると思う。

インドネシア専科

編者前書き

2018年に亡くなった大槻重之さんから、この「インドネシア専科」をもう一度インターネットに挙げてほしいと生前依頼されたのでここに編集して掲載するものである。

編集にあたって、巻末の注を脚注に異動し、必要に応じて「編者註」も追加したものである。

図と写真は編者が作成・撮影して本文に追加したものである。

2019年6月

編者 田口重久 <omdoyok@infoseek.jp>

【歴史編目次】

C-1 ジャワ王朝史		C-3 オランダ支配史	
243. サイレンドラ王国	7	270. 先駆者ポルトガル	33
244. 古マタラム王国	8	271. オランダの到来	33
245. ケディリ王国	8	272. 東インド会社	34
246. シンガサリ王国	9	273. アンボン事件	35
247. マジャパイト王国の元祖	10	274. バタビア商館	36
248. 栄光のマジャパイト	11	275. オランダ領東インド	37
249. ドゥマック王国の勃興	12	276. ラッフルズの支配	38
250. 新マラタム王国	13	277. ジャワ戦争	39
251. 王位継承戦争	14	278. パドゥリ戦争	40
252. マタラム王家の分割	15	279. 外島領土の拡大	41
253. ジャワ王朝の終焉	16	280. バリ島侵略	42
		281. アチェ戦争	43
C-2 地方王権		282. 強制栽培制度	43
254. 地方王権とは	18	283. 倫理主義	44
255. スリウィジャヤ王朝	18	284. 植民地支配の終焉	45
256. サムドゥラ・パサイ王国	19		
257. アチェ王国	20	C-4 民族意識の形成	
258. ムラユ王国	21	285. 民族意識の芽生え	47
259. スマトラの諸王朝	22	286. ブディ・ウトモ	47
260. パジャジャラン王国	23	287. イスラム同盟	48
261. バンテン王国	24	288. 社会主義思想	49
262. チルボン王国	25	289. タマン・シスワ	51
263. マドラ侯領	26	290. インドネシアの発見	52
264. バリ古代王朝	27	291. オランダ留学生	53
265. バリ8小王国	28	292. 青年の誓い	54
266. カリマンタンの王国	29	293. インドネシア国民党	55
267. ゴワ王国	30	294. 協調路線の限界	56
268. ボネ王国	30	295. 民族主義社会主義	57
269. テルナテ王国	31	296. 国旗/メラ・プティ	58
		297. 国歌/インドネシア・ラヤ	59

C-5 日本の占領統治		332. ダルル・イスラムの反乱	93
298. 太平洋戦争	61		
299. ジョヨボヨ王の予言	61	C-7 人物列伝	
300. ジャワ占領	62	333. アイルランガ王	95
301. 3A運動	63	334. ケン・アンロック王	95
302. 大東亜会議	64	335. ガジャマダ宰相	96
303. 南方特別留学生	65	336. クーン総督	97
304. プートラとジャワ奉公会	66	337. スルタン・アグン王	98
305. ロームシャ/労務者	67	338. ラッフルズ英国副総督	99
306. ヘイホ/兵補	68	339. ディボヌゴロ王子の反乱	100
307. 農民の反乱	69	340. ディボヌゴロ王子の余生	101
308. ポンティアナック事件	69	341. 女傑チュッ・ニャ・ディン	102
309. ペタ/郷土防衛義勇軍	70	342. カルティニ/ジャワの才女	103
310. ブリタルの反乱	71	343. カルティニの挫折	104
311. 独立養成塾	72	344. 政府認定国家英雄	105
312. 遅すぎた独立承認	73		
313. 独立準備委員会	74	C-8 日本との関連史	
314. 日本の敗戦	75	345. アンボン事件の傭兵	107
315. 青年グループの台頭	76	346. ジャガタラおはる	107
316. レンガスデンクロック事件	77	347. カラユキサン	108
317. 独立宣言の起草	78	348. トコ・ジュバン	109
		349. 糸満の漁夫	110
C-6 独立戦争		350. 日露戦争の衝撃	111
318. 独立宣言の発布	80	351. ジャガタラ日本人会	112
319. 45年世代	81	352. 今村均将軍	113
320. スマラン事件	82	353. 第16軍宣伝班	114
321. スラバヤ100日戦争	83	354. タンゲラン青年道場	115
322. バンドン火の海事件	83	355. 前田精海軍武官	116
323. スマトラ島の戦い	84	356. バリ島の三浦襄	117
324. バリ島の戦い	85	357. 吉住留五郎	118
325. リンガルジャティ協定	86	358. 市来龍男	119
326. マディウンの内乱	87	359. 独立戦争の英雄	120
327. ジョグジャの戦い	89	360. 帰らなかった日本兵	121
328. スディルマン将軍	90	361. ミエ学園	122
329. オランダの孤立化	90	362. 戦時賠償	123
330. ハーグ円卓会議	91	363. デウィ・スカルノ夫人	124
331. 南マルク共和国	92	364. 日本ワヤン協会	125